

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 41 週 (10 月 9 日～10 月 15 日)

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 乳幼児に特に注意 咳エチケット 手洗いの励行を

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 4週連続で減少」

第41週は前週比2.1%減の1,828例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、突発性発しんの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ2.9、1.8、1.6、1.1、0.5である。

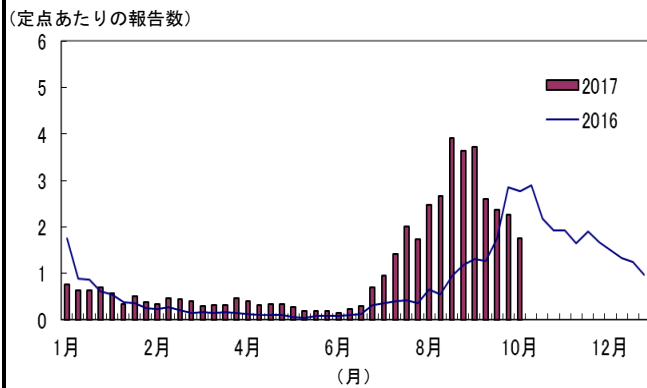
感染性胃腸炎は前週比5%減の576例で、中河内5.2、南河内4.5、北河内4.0であった。

RSウイルス感染症は22%減の353例で、大阪市北部4.4、南河内2.8、中河内2.4、大阪市西部2.2と続いている。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3%減の317例で、豊能2.6、大阪市北部2.4、南河内2.3である。

手足口病は69%増の228例で、北河内2.3、南河内1.9、中河内1.6、豊能1.4であった。

RSウイルス感染症



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

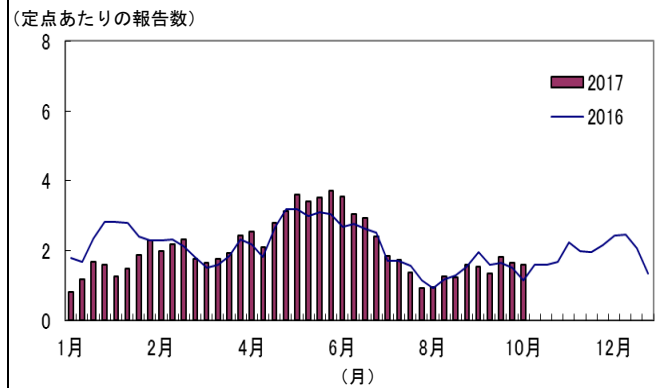


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017(平成29)年 第41週 10月9日-10月15日)

第41週 の順位	第40週 の順位	感染症	2017年 第41週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016年 第41週の 定点あたり 報告数	2017年 第41週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.9	5%減	3.5	1歳_16%
2	2	RSウイルス感染症	1.8	22%減	2.8	1歳未満_37%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.6	3%減	1.2	5歳_14%
4	4	手足口病	1.1	69%増	0.8	1歳_32%
5	5	突発性発しん	0.5	4%増	0.4	1歳_56%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.1	49%減	0.1	10歳-14歳_11%

第 41 週のコメント

～ 腸チフス ～ 国内では、毎年 20～35 例前後が報告されています

全数把握感染症

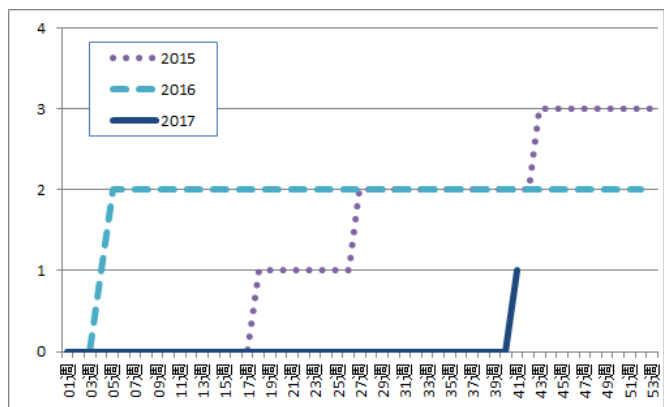
腸チフス

腸チフスは、サルモネラ属のチフス菌 (*Salmonella enterica* serovar Typhi) による全身性感染症であり、通常、8～14 日間の潜伏期間の後、発症する。悪寒を伴う階段状の体温上昇（稽留熱）、比較的徐脈（高熱の割に脈が遅い）、バラ疹（高熱時に出現して数時間で消失）、肝脾腫が認められる。重篤な合併症として、発症の 2～3 週間後、腸出血や腸穿孔が起こる。近年、国内では毎年 20～35 例前後が報告されており、その約 7～8 割は、海外での感染が強く疑われた症例である。チフス菌の感染の場合、患者の糞便と尿、それらに汚染された食品、水が感染源となり、経口的に感染する。腸チフスの流行地域（東南・南アジア地域）に渡航する者は、予防として、十分に加熱された飲食物の摂取、徹底した手洗い（食事前やトイレ後など）を心がける。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)



(週)

表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 41 週 10 月 9 日～10 月 15 日)

*) 注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (大阪市 2 名、府内累積報告数 147 名) 腸チフス 1 名 (豊能ブロック 1 名、府内累積報告数 1 名)
4 類感染症	報告はありません
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢 1 名 (堺市 1 名、府内累積報告数 97 名) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (三島ブロック 1 名、府内累積報告数 109 名) 後天性免疫不全症候群 1 名 (大阪市 1 名、府内累積報告数 140 名) 侵襲性髄膜炎菌感染症 1 名 (堺市 1 名、府内累積報告数 3 名) 水痘 (入院例) 1 名 (大阪市 1 名、府内累積報告数 16 名) 梅毒 8 名 (豊能ブロック 3 名、大阪市 5 名、府内累積報告数 607 名)
結核 (2017 年 8 月分)	結核 新登録患者数：153 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 56 名) (府内累積報告数 1279 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 526 名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2017 年 10 月 17 日 集計分)